

中学校1・2年生
こんな時期です



学習時間のめやす
105～120分

「育ち」や「学び」の特徴

いわゆる「思春期」（大人への入り口）といわれる時期です。

- 心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- 家族と依存したいという気持ちと、家族から自立したいという気持ちが混在します。
- 矛盾する大人の態度に反抗的になります。また、仲間や友だちの影響を強く受けます。
- 他人から見た自分を意識し、比べて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりします。
- 中学校生活を有意義に過ごすためには、部活動との両立が大切です。

学習内容の特色(学校で)

授業の内容が大きく変わります。

- 教科ごとに先生が変わることに加え、小学校で学習する内容に比べ、中学校の内容は、質・量とともに、ずいぶん違ったものになります。

自分から課題を見つける家庭学習に変化していきます。

- 最初は宿題から、やがて自分自身で勉強方法や内容を工夫して、何をするか自分で考え、決められるようになることが大切です

家庭学習の つぼ! 3か条



その
1

予習で工夫を! 復習に重点を!

あらかじめ自分で調べたり考えたりして、授業に臨めば、課題を見つける力もつきます。

また、その日のうちに、教科書やノート、プリントを使って学習のポイントを整理し、思い出すように働きかけましょう。「継続」は「習慣」となり、いずれ「性格」にも影響します。

その
2

学校(先生)のプリントの有効利用を!

学校(先生)のプリントには学習のポイントが整理されています。有効に利用するようアドバイスしましょう。

その
3

「急がば回れ」の気持ちで!

問題に取り組んでいて分からない時は、分かるところまで戻ってやり直すとともに、間違ったところは、必ず見直すことが大切です。先生に相談することもよいでしょう。

学習課題をやりきったという達成感と自信が、さらなるやる気を起こします。

ワンポイントアドバイス

中学校 1・2年生 家庭学習
こんな内容・方法で



- 「毎日、何時間勉強する」「毎日、教科書(問題集)を何ページする」など、具体的な目標を立てよう。
- 学校の時間割に合わせて、予習復習の計画を立てよう。
- 毎日決まった場所で、決まった時間に、決まった教科を勉強しよう。



国語

- はっきりと声に出して教科書を読みましよう。繰り返して読むことが大切です。
- 漢字は何回も書いて、確実に覚えるようにしましよう。
- 意味の分からない語句は、国語辞典で調べて確かめておきましよう。
- 小説や物語を読んで、自分の生き方を考えてみましよう。また、推薦図書はぜひ読みましよう。

社会

- 新聞やテレビで話題になっていることを、自分でも考えてみる習慣をつけましよう。
- 教科書を繰り返し読んで、内容の理解に努めるようにしましよう。
- 学習したことを、ノートに工夫してまとめてみましよう。

数学

- その日の授業で取り組んだ計算問題を、やり直しましよう。
- 教科書に載っている文章題と同じ種類の問題を、問題集などを使って解いてみましよう。

理科

- 図やグラフなどの資料を見ながら、なぜそうなるのかを考えるようにしましよう。
- その日の授業で学習したことをまとめたり整理したりするなど、ノート作りを工夫しましよう。
- テレビや新聞などで、科学に関することに疑問や関心をもって調べてみましよう。

英語

- 新出語(句)と基本文は、声に出しながら繰り返し書きましよう。
- 教科書で習った本文は、まず、声に出して読んでみましよう。読めたら、その意味を日本語で書いて、今度はその日本語を見ながら英文が書けるまで練習しましよう。
- 習った基本文型や文法を用いて、自分に関係のあることから英文で書いてみましよう。

長い休みにはこんなことを!

たとえば

- 音楽関係の情報を集め、催しに進んで参加し、いろいろな音楽に親しもう。
- 見慣れている果物や野菜、室内の様子などを題材に、スケッチをしてみよう。
- 衣服の管理や調理、生活に役立つ「ものづくり」にチャレンジしよう。
- 健康や安全に関するテレビ番組などを家族と一緒に視聴し、家族の健康や生活を振り返ろう。縄跳びやジョギングなどの運動を続けよう。



我が家のばあい

プロゴルファー宮里藍さんの父 優さんの話

私は人生の「水先案内人」としてゴルフを通じて三人の子どもたちに「夢をもつこと」「誇りをもつこと」「努力すること」の大切さを教えてきた。子どもを一人前にするには、およそ25年という長い年月がかかる。そこに至るまで親は莫大な愛情とエネルギーを注がなければならぬ。子育ては人生最大の仕事なのである。現在「親業」に携わっているみなさん、がんばりましよう。

『宮里流ゴルフ子育て法 学校一番、ゴルフ二番』より
(日本経済新聞社)

ちょっとひとこと

『個室は 子失??』

～子ども部屋を閉ざさない～

子ども部屋のことが話題になっています。親の目が行き届かない、会話が減ってしまった…。家族で話し合い、ルールをつくるのが大切です。「鍵をかけない」「無断で友だちを入れない」「居間に顔を出す」など、子どもの様子をきちんと把握できるように、ルールづくりをしましよう。